

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		川西市図書館協議会	
事務局(担当課)		教育推進部 まなび支援室 中央図書館(内線4581)	
開催日時		平成29年2月13日(月)16時~17時	
開催場所		川西市立中央図書館 5階 視聴覚室	
出席者	委員	常田麻里委員、小和田勉委員、西谷久則委員、森野雄二郎委員、 田中里香委員、近藤詩壽代委員、谷内直子委員、森明子委員、 仲井徳委員	
	事務局	村山中央図書館長、藤本館長補佐	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第		1. 開会 2. 報告事項 (1) 平成28年度実施事業報告 子どもの読書活動推進について 学校との連携について 図書館ボランティア等との協働について 施設の改善について 3. 協議事項 (1) 平成29年度図書館運営について 読書啓発に関わる事業について 市民との協働について 4. その他 (1) 図書館システムの更新について 5. 閉会	
会議結果		別紙のとおり	

審 議 経 過

平成 28 年度第 2 回川西市図書館協議会

1. 開会

事務局進行

2. 報告事項

(1) 平成 28 年度実施事業報告

子どもの読書活動推進について

学校との連携について

図書館ボランティア等との協働について

施設の改善について

事務局より、別添資料にもとづき報告を行った。

3. 協議事項

(1) 平成 29 年度図書館運営について

読書啓発に関わる事業について

市民との協働について

事務局より、別添資料にもとづき説明の後、意見交換と質疑応答が行われた。

質問・意見等(要旨)

読書啓発に関わる事業について

事務局：来年度の読書啓発事業として、児童向けとして夏休みの夕方に怖い話の読み聞かせや図書館探検を、また、一般向け事業として、図書館に来館しない、また、できない世代を対象に、土・日・祝日や 5 時以降に「暮らし」や「仕事」をテーマとした講座を開くことを考えている。委員のみなさまにご意見をいただきたい。

委員：夜間のイベントに関わる開館時間について、アステの他の店舗との兼ね合いはどうか。午後 8 時以降も実施可能か。

また、イベント参加者だけが 8 時まで図書館に滞在するのか。

事務局：子どものイベントについては、小学生以上を対象に、5 時～7 時ごろの時間帯を検討

している。

また、講座がらみで開館時間の延長も検討していく。

委員：ナイトライブラリーはすてきなアイデアである。ぜひ実施してほしい。

委員：読書通帳など自分の読書記録を振り返ることができるものがあれば、子どもたちの読書意欲も高まる。読書通帳の導入について、中央図書館はどう考えているか。三田市ではすでに導入されている。

事務局：読書通帳は、自分の読書記録を銀行の通帳を模して記録していくものであるが、図書館システムの変更が必要であり、経費もかかる。すぐに導入することは困難である。来年度、川西市子どもの読書活動推進協議会では、就学前の子どもを対象とした「読み聞かせ手帳」の配布を検討している。

委員：「読み聞かせ手帳」について、乳幼児の母親の中には、読み聞かせの時間が取れない人もいる。親が読み聞かせの記録を残すためだけのものでは、効果的ではない。

事務局：読み聞かせの記録だけを目的としたものではなく、使用する親や子どもたちが自由に使うことができるよう工夫をしていきたい。

委員：小学校では、たくさんの本を読んだ子どもたちを表彰したり、プレゼントを渡すなどの工夫をし、子どもたちの読書活動の促進を図っている。

また、図書室の入り口に「読書の木」を設け、図書室を利用した子どもたちに葉っぱを模した紙に名前などを記入し、貼り付けている。

委員：伊丹市立図書館では、元英語の教員だった市民が日本の小説を英語で読んだり、マイブックを作ったり、本の帯を作成したりなど様々なイベントを行っている。参考にしではどうか。

委員：一般向けの事業で「暮らし」や「仕事」に関わる講座を開催するというが、夜間であれば「文学講座」などに参加したいという主婦層もいる。

市民との協働について

事務局：来年度、図書館の開館前に書架整理などをする新たなボランティアを導入したい。ご意見を伺いたい。

委員：ボランティアの人数はどれくらいか、また、具体的な計画はどうなっているか。

事務局：年齢層や人数はまだ見えていない。他の図書館では、60歳以上の人が多いと聞いている。

計画については、12月または1月に養成講座を行い、2月の蔵書点検時に配架や書架整理の実習を行い、平成30年度からの実施を考えている。

委員：開館前の活動だけで終わるのではなく、ボランティアが活動後に交流する場があれば、もっと良い。

委員：図書館に負担がかかるインターンシップという形ではなく、中高生に夏休み期間中に図書館のボランティアをしてもらってはどうか。

委員：ボランティアの養成講座はどのような内容になるのか。

事務局：本の並べ方やボランティアの心構えなど、3回程度で考えている。

事務局：今後も読書啓発に関わる事業や市民との協働についてご意見があれば、お聞かせください。

4. その他

(1) 図書館システムの更新について

事務局より、説明の後、質疑応答が行われた。

質問・意見等(要旨)

事務局：平成30年2月に図書館システムを更新する。平成29年の夏から準備を進めて、現行システムの不便な点を改善していく。

また、ICタグの導入については、初期導入費用は高額だが、自動貸出機の設置や蔵書点検の作業量の軽減などの利点を考慮し、今後研究する必要がある。

委員：新しいシステムで個人の読書記録を残すことはできないか。学校では可能である。

事務局：保有データが膨大になることと個人のプライバシーを保護する観点から、一度返却された図書の情報は個人の貸出記録から消えるようになっている。

(2) その他

事務局より、図書館運営については、今後もそのあり方や実績を問われるものであり、市としての検討は継続されている旨伝える。

6. 閉会

以上

資料については、市政情報コーナーに設置しています。